

# 鴨沂高校同窓会報

発行●京都府立鴨沂高等学校同窓会 〒602-0856 京都市上京区荒神口通寺町東入 鴨沂会館内  
TEL(留守電)&FAX 075-212-4445 URL●http://www.geocities.jp/ohkidoso/



## 今年卒業した 一人の青年のこと

鴨沂高校同窓会会長 鈴木 正穂

三月十一日の東日本大震災から時は過ぎ、季節は巡りますが、亡くなった方々、行方不明になられている方々のご冥福をお祈りするとともに、原発事故の収束と被災地の復興を願うものです。

さて、この春、久しぶりに母校を訪問、山岸校長先生が「実は京都市役所に就職した卒業生がおりまして」と、明るい顔をされたのが印象に残っていました。いちど会いたいな、と思い連絡して会いました。佐々木祐君という十九歳の好青年です。一九九二年(平成四年)生まれ、山科で育ち鴨沂高校に入学。クラブはバスケットボール部。卒業までクラブ活動にがんばり、一年の時はドミノ大会、二年生のときは演劇コンクールにも熱中、三年の時「仰げば尊し」では動物虐待をテーマに山車を作ってパレードして多くの友人を得たそうです。いい先生にも出

会い、鴨沂高校卒業生の前川博基さんが今も頑張っている食堂は安くて美味しく、修学旅行は沖縄。海の美しさに感動するとともに、島民が集団自決したガマに入って戦争と平和を考えたそうです。生徒自治会活動でも副会長として「自由」のことについて論議し、この春の卒業式でも答辞の作成にかかわり、壇上からみんなにありがとう、と言ったということ。佐々木君は、大学進学を目指していましたが、家庭の事情もあって、自立する道を選択。京都市の中級試験に挑戦。八十人ぐらい応募者があつたらしいのですが、合格、採用されたのはわずか二人です。素晴らし

ようですが、職場の諸先輩にも恵まれて、この春から北区役所まちづくり推進課で公聴振興を担当しています。初々しい社会人の一年生です。彼と話していると、なにかしら熱い希望を感じました。

この春、鴨沂高校を卒業した生徒は男子八十五人、女子九十八人の一八三名です。彼をはじめ今年卒業したみなさんは、第六十三期生でしょうか。同窓会の最も若いメンバーです。彼の話聞いてみると、ぼくらの高校時代と何も変わっていないように思えました。いつの世も青春は変わらな

## 京都府立 鴨沂高校同窓会総会

## 平成23年度



日 時 ● 平成23年11月20日(日)  
午後3時30分～受付開始  
会 場 ● ウェスティン都ホテル京都 山城の間(東館2F)  
京都市東山区三条けあげ (☎075-761-0252)  
懇親会会費 ● 8,000円 ※当日お支払い下さい。

※準備の都合上、10月31日(月)までに同封のはがきで(誠に恐縮ですが50円切手を貼って)、出欠の連絡をお願いします。

詳細は、最終ページをご覧ください

# ご挨拶

京都府立鴨沂高等学校長

## 山岸 忠



常々は本校教育推進のため、何かとご協力ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ございます。特に毎年、本校生徒のための奨学金や教育活動に多大なるご援助や、また卒業生への御協力を頂き、学校を代表して厚く御礼申し上げます。昨年に引き続き、鴨沂高校の校長の重責を担うことになりました。微力ではありますが、懸命に職責を果たしていく所存でございますので、今年も何卒よろしくお願いたします。

さて本校は、昨年に引き続き今年度も京都府教育委員会から、「学力向上フロンティア事業指定校」に選ばれ、教育委員会から予算をいただき、学力向上や進路希望実現のための様々な取組を進めています。また、N-1E(教育に新聞を)の準実践指定校にも選ばれ、活字離れが言われている昨今の生徒に対して、新聞を活用した活動を行っています。

部活動では、昨年は水球部女子が全国大会準優勝、自転車競技部がこの夏も北東北で行われるインターハイに出場するなど活躍しています。



また、地域の春日学区ふれあい広場では、毎年茶道部の女子生徒がお点前を披露するなど、地域にも貢献してくれています。

このように様々な取組を行っていますが、現実には課題が多いのも事実です。しかしながらこのような取組を充実して、本校の長い歴史と伝統を築かれた諸先輩方の素晴らしい業績を引き継げるよう、鴨沂高校の新たな伝統を築いていく所存でございます。今後とも皆援のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

結びにあたりまして、今後ますますの同窓会のご発展と会員の皆様のご健勝を折念して、私のご挨拶とさせていただきます。

# 関東支部から

鴨沂高校同窓会 関東支部

## 支部長 芝原 央充

平成二十二年度の鴨沂高校同窓会・総会の開催おめでとうございます。

「ご準備頂きました役員の皆様のご努力に対し、深く敬意を表します。鴨沂高校同窓会・関東支部を代表しましてご挨拶を申し上げます。

平成二年に第一回関東支部の同窓会を開催して以来三年毎に開催、来年は第八回の開催年になっており、間もなく準備会を発足させる所存でございます。

当初は鴨沂会と鴨沂高校同窓会関東支部の合同で開催して参りましたが、前々回より鴨沂高校単独の同窓会として運営しております。

第七回(平成二十一年)は桶谷良学校長・鈴木正穂同窓会長にもご臨席を賜り、鴨沂高校の現状や『学力向上フロンティア校』の取り組み等のご説明をお聞きし、改めて安心とご期待をさせて頂きました。

関東支部におきましては、最近の卒業生の入会が無いことで高齢化が進み、参加者も残念ながら減少気味であります。

しかしながら、毎回、一期生の先輩を先頭に京都での青春時代を再現するような楽しい語りいと、校歌

の大合唱を楽しんでいます。各期別の同窓会はそれぞれ年に数回、会合を持ちたり、旅行をしたり、小規模ながら活発に活動しています。小生は十五期であります。毎年のように一泊旅行や、十五期の仲間の上京にかこつけ、食事会等をしていきます(本年も六月に一泊旅行をしました)。

それぞれ社会人としての使命を全うした次の人生は、全く利害関係のない高校時代の友情を復活させ、他愛のない仲間との交遊にあることを改めてかみしめています。

役員の皆様には大変なご苦勞をおかけしますが、今後とも未永く同窓会が継続します様お祈り申し上げます。



## 同窓会の運営を担ってみて

理事長 山崎 賢二

同窓生の皆さまには元気でご活躍のことと思います。三月の東日本大震災などで犠牲になられたり、被害や避難を余儀なくされている方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

同窓会の運営につきましては、平素より皆さまのご理解ご協力をいただき、四十名の役員でスタートし、より充実した業務遂行を目指して参りました。いよいよ錦秋の京都にご参集いただき、この二年間を締め、次の三年間の計画をご提案する総会開催の運びとなりました。

一介の理事から理事長をお引き受けしましたが、計画された事業の推進、会報やホームページなど情報の発信および集約、理事会・常任理事会・事務局会議など会務運営、共有資産の維持管理、同窓会運営理念の確立などにおいては、鈴木会長を先頭に理事・監事の英知を結集し、審議・決議を経て邁進いたしました。以下に主な事業の報告をいたします。

### 奨学金制度

鴨沂高校の前身である第一高等女学校の同窓会から発展した「社団法人京都鴨沂会」の公立高等学校校生奨学金制度の審査機能を利用させてい

ただく形で、鴨沂高校生徒に限って月額一万円を、年度ごとに応募する成績優秀な三名に平成二十一年度から助成しています。授業料無償化に伴い、平成二十二年からは月額六千円を二年生に特化して、六名に増員しています。この奨学金制度は、皆さまからの同窓会運営協賛金で維持されています。

### 母校への寄付

先の総会は、昭和二十三年度の学制改革による鴨沂高校創設から六十年に当たることから、母校の教育支援として皆さまからの同窓会運営協賛金の一部百万円を寄付いたしました。

### 支部への助成

同窓会唯一の支部として「関東支部」が平成二年に発足され、二年ごとに同窓会を開催されています。また各期ごとにも小旅行を持つなど楽しい活動の様子がつかがわれます。関東や近隣県には多くの同窓会員が在住され、以前からその活動の支援を期待されていることに鑑み、年額五万円の助成を行いました。なお、同窓会運営協賛金に比例して多少の増額を予定しています。

### ホームページ(HP)開設

平成二十二年一月に開設いたしました。主な項目は、同窓会会報、会則、

理事会報、同期卒業生情報、同好会等の情報などで構成しております。同窓会報は、一九九四年(平成六年)十月に発行された第一号から直前の第八号までを洩れなく掲載しています。そして、今回の第九号も完成次第アップいたします。同期卒業生情報は、同期同窓会の開催案内や報告など、また、同好会等の情報もあります。このように、時事情報の掲載でホームページらしくなってきました。皆様も一度アクセスして下さい。

い。そして、投稿や掲載依頼、またお気付きのこと等の連絡をお待ちしております。  
【アドレス】  
<http://www.geocities.jp/ohkidoso/>

### 専用事務室開設

鴨沂会館三階和室の一角に居候していたものを正面玄関脇に移転して、家賃月額一万円で開設いたしました。なお事務局体制は留守電とFAXのみで、脆弱なものを承知下さい。

## 会費納入のお願い

平成12年度より同窓会財政の健全化を目的として、同窓会の皆様より会費のご協力をお願いしてまいりました。お陰様でこの10年間、母校への皆様の思いが少しずつ届けられるようになり、会費が納められるようになりましたが、その数は、全体から致しますと、まだまだ少数です。今後の同窓会のより一層の発展と確かな財政基盤を確立し継続していくために、皆様のご協力をお願いします。今回も会報(第9号)と共に、ゆうちょ銀行の送金用紙「払込取扱票」を同封させていただきました。会費は、1年2,000円です。但し、総会及び会報発行が3年毎としておりますので、出来れば3年分6,000円を入金していただければ有難いと思いますが、皆様のご都合に合わせて何年分でもご入金いただけましたら幸いです。

今後も、多くの卒業生とつながりを持ち、また、これから高校を卒業していく後輩のことを考え、鴨沂会館内に事務所を設置し、在校生へ奨学金を助成していきます。このような活動のためにも、より一層の皆様のご協力をお願いします。

# 同窓会開催報告

## 第一期卒業生

### 同期会の終焉

木村 要

鴨沂高校の一期生が昨年、南禅寺の料亭で八十歳の「傘の祝」の同期会を催した。

長寿を喜ぶと同時に櫛の齒の欠けるように親友達が鬼籍に入って逝った報告を聞く寂しさも味わった。当然の事だが小学校でも中学校でも昨年は喜びと悲しみが交互に話題になった。その上、八十歳にもなるとそれぞれで継続してきた同期会の世話をする幹事が居なくなっていくという事態にも立ち至った。

辛うじて小学校は幹事をしていてくれた役員のおさんが事務的な仕事を手伝ってくれる事になり存続の可能性を残した。

中学校は立ち消えの様相である。

鴨沂高校の一期生の会も傘寿の会を最後にしようとして昨年決めた。しかし、大会後、同期会の終焉は幹事が一方的に決めて報告されたかのような印象を持った会員から存続の意見が出た。

私は終焉決定の幹事会に居た以上、その決定に従うべきだし、幹事役を続けていくくれた友人の労にも感謝

して来た。しかし、数人でも「誰かが生きている限り継続しよう」という意見も尤もであると思ったので、責任上、同期会の新規幹事会開催の提案を受ける責任者として生きている限り努力をしましよと約束をした。鉄は熱い内に打たねばならない。でも、冷めた鉄が再び熱くなった時、打つ者が居らなくてはならないだろうと思った。八十八歳の「米寿」まで待てば、何とか答えが出ると思っている。

「卒寿」もあれば、「白寿」「百賀」「茶寿」「皇寿」「珍寿」もあるので、まだまだ慌てる事も無かろうと思っている。

嘗て、旧京都府立第一中学校の同期会(傘寿会)で話をさせられた時、狂言の新作を三十五作発表された和泉流の故三宅藤九郎師を越そうと三十六作の新作狂言の創作・発表を目指しているが、寿命も世界の最高が百二十三歳と聞いた事があるので私も百二十四歳まで生きていようと思っていると話した所、皆がどっと笑ったのでしてやったりと降壇した所、直ぐに昇壇した神戸の医者の方が「木村の話で皆は笑ったが、人間は百二十歳までは生きられる、彼はそれを四年伸ばそうと言っただけで、百二十歳までで死んだ者は病死、その

後は老衰。ドット笑うべき事ではない」と言って降壇した。その時は私も思惑が外れて慄然としたが、今も笑っているかも知れない諸君の顔を思い浮かべながら、確認のためパソコンで人間の寿命を調べて見た。以下、その報告である。

ギネスの記録では人間の寿命の記録は、生没月日が判明している人での最高は、百二十二歳と百六十四日で一八七五年から一九九七年まで生きたフランスの女性ジャンヌ・カルマンさん。二位は泉重千代さん(一八六五〜一九八八)百二十歳と二百三十七日だとある。動物の血酸素の取り込み量による寿命の限度は百三十歳位と言われ、DNAの再生限度によると、百二十歳位だと言われている。

寿命も長ければ長いほど良いとは思っていないが、日本人の寿命平均は現在世界一だそうである。

## 第二期卒業生

### 卒業してから六十年

仲谷 喬

私たち第三期生は今年卒業六〇周年を迎えます。一九五一年に十八クラス八四五名が卒業しました。終戦の年に旧制の中学校、女学校に入学し三年経った時、新制制度が発足。いわゆる六・三・三制がスタートし、私たちは新制高校の一年に編入学しましたが、その年の四月には現在の

鴨沂高校の校舎は午前中は女子(鴨沂高校)、午後が男子(洛北高校)現在の洛北高校ではない)として変則授業でスタートしました。同年十月十五日に改めて男女共学の現在の鴨沂高校として再スタートしました。

来る十月十六日(日)には新制高校発足の日を記念して京都駅前(センチュリー・ホテル)で三期同期会を開催します。この同期会は四十年以上にわたって毎年開催していますが今年卒業六十周年記念の同期会でもあり百数十名の参加を見込んでいます。私たちの三期生は結束が固く、旅行あり飲み会ありゴルフ会あり、毎月三日の昼食会には京都駅前のビアホールに毎回二十名以上が集まっています。

在校中はまだ「戦後」を引きずりながらの生活で食生活も貧弱を極め、学校の近くのつとん屋やアイスキャンデー屋、出町柳のポテト屋へ行く位が楽しみなことでした。文化的な楽しみとしては映画でした。アメリカ映画「春の序曲」「姉妹と水兵」などのスターにあこがれたものです。しかし既に高校オーケストラが編成されて母校の講堂で演奏会が開かれ、音楽文化への光明を予感したことを懐かしく思い出します。この六十年前の青春時代以降を振り返って、色々な強い刺激を体験してきた人生の意義を改めて思い起す昨今です。

### 第七期卒業生

#### 三十年卒、第十一回七期 同期同窓会近づく

今岡 公榮

私たち同期会は三年毎に行い、今回新都ホテルで六月二十五日(土)に行うことになりました。今迄はまだ働いている方もおり、午後六時に開催していましたが、我々も七十五歳後期高齢者の年輪を迎え、開始時間を早目の午後一時としました。出席者は現在一五〇名の予定です。



この三年間に各組の世話役から十六名の死亡報告を受けています。しかし実際には連絡の取れない方も多くあります。

私達が世話になった先生も少なくなつて上村榮一先生(九十三歳)が、ご出席と聞いて大変喜んでいますが、今回同期の中で余興として、是非ヴァイオリンを披露したいという申出があり、受け入れることにしました。皆さんがよく知っている曲やカラオケで歌っているような曲を選んで、リストアップしました。盛り上げれば、よいと思つています。

日常のお付き合いでは、「ゴルフ同好会もまだ続いています。昨年は、ピアノリサイタルを開催したり、ラテンジャズの同好会で盛り上がっています。また、グルメの会では「岡崎つるや」で貸し切りで楽しい一時を過ごしました。海外旅行やカラオケを一緒にやっているグループもあります。残された人生を同期で楽しく過ごしたいと思つています。

(平成二十三年六月十日記)

### 第八期卒業生

上野 民夫

多分、生まれてからずっと京都に住み着いていることによるのであろう。いつの間にか第八期卒業生の世話人代表を務めることになった。同期会のお世話をするにあたって日ごと

る感じている心情を簡単に述べさせていたがたい。

去る六月四日に世話人一同が鴨沂会館に参集して、次回の鴨沂高校第八期同期会を今年十一月十七日(木)十一時三十分からウエスティンホテル京都で開催することを決定した。最近は三年毎に同期会を開催しているが、十数年前からは毎回一八〇名前後の参加数が定着している。毎年卒業学年の同窓会が行われているクラスもあるが、全学年で集つても、いつも同期生の親近感に感動を新たにしている。この感動は高校時代にも培つた高い感受性に由来するのと言つてもよい。

小学生、中学生では学区での生活体験が主体をなしていたが、高校へ進学することによって交流地域は拡大し、当時は上京、中京、左京、東山区に及び広域から岡崎、近衛、銅駝、山科、上京、柳池、初音等の中学校の出身者が集つて交友関係が広がることになった。それぞれの学区には居住、学術、商業、農業など地域に宿る文化があり、そこで育まれた極めて多様な人格の集合と先生方から授かる教育が、鴨沂高校に特有の自由な学風を醸成していたことを思い出す。選択科目で他のクラスの人たちとも同席して授業を受けたことは交友の輪を広げた。それに加えて、御所に隣接する恵まれた環境が休憩時間の交流をさらに広げた。部活、体育祭、文化祭など課外で培つた交

流も忘れることはできない。同期会で四・五十年ぶりに再会して、一人一人の人格と特技を鮮烈に回顧できるのは何よりも心と脳のリフレッシュに効果がある。

鴨沂高校は多くの名士を輩出しているが、私たちの頃は、体育と進学を兼備した全国屈指の名門校であった。地元の大学に進学して学内に毎年数十人の鴨沂卒業生を数えることができたので、同期生との交友は日常の行動であった。

卒業以後は、小・中・高・大学を地元で過ごせたことを京都以外からの学友から羨望され、京都の案内にたびたび喜びを感じてきた。そのエピソードの一つを紹介すると、ある国際会議の懇親会を荒神口のく(久邇)荘で開催したとき、この会場は昭和天皇後の香淳皇后の生家で、皇后が幼い頃に過ごした場所であることをスピーチで紹介した。自分が卒業した近接する鴨沂高校の前身は府立第一高等女学校と称し、戦前までは貴族の子女も通う学校であったことを述べたとき、海外からの参加者の驚きと喜びは一人であった。

卒業後五十余年を経て、今も旧交に感動を新たにできるのは、鴨沂高校への郷愁がそれとも愛着か。同期会には遠来の参加者も多く、また東京では関東地区在住の同期会も開催されている。同期の皆様は十一月十七日の会への参会を心待ちにしている。

### 第十期卒業生

#### 第十期卒業生同窓会開催

川尻 肇

三年毎に開催するこの会も十一回目を迎えました。思い出せば、卒業して、十数年目のある日突然、「同窓会開催」の案内状が届いて、びっくりにして以来、三十三年目になります。さすがに今回の出席状況の把握には、かなりむずかしい経緯がありました。でも「よくぞーこれだけの多勢があつめたなー」が、実感でした。

開催場所 京都センチュリーホテル  
開催日時 二〇一〇年六月十三日(日)  
十二時三十分〜  
参加人数 一五九名



十期卒業生総数 五九七名  
連絡できる卒業生 四五八名  
亡くなった方 八四名  
住所不明 五五名

なんと集まってこられたのは、一時間も前から、そして定刻には、全員揃っていました。

たつたお一人のご来賓、浜田香代子先生の「脳の健康」のお話を伺って、私たちも自らの年齢を思い直し、食べ物の選定や、健康体操をしつかりやることの必要性を痛感。

思い出せば、私達の世代は、戦後日本の再生期、石油コンビナート、カラーテレビ、パソコン、自動車産業、全ての産業がグローバル化して発展する「一大成長期の担い手」だったんですね。



いろいろな仕事に関わってきた友人たちも、今はリタイアして、勝手なことばかりしているのか？と思いきや、中には楽しみながら「悩む人のためにー」カウンセラーをしている方もいました。

いつも元気に活動している方々ばかりでもありません。重い病気に罹り、九時間も手術をした方も。又、いつの間にか亡くなっている友人が多かったのも、今回の特徴でした。

これからこの同窓会をさらに続けていくならば・・・、新しい方法を考えねばならないと思いました。簡単に連絡し合い、度々開けるように。

これからのために、第十一回開催記念名簿を制作して、出席者に配布しました。最後に「今日の日はさようなら」を歌って散会したときには、夕暮れが濃くなっていました。  
(平成二十二年六月十五日記)

### 第十一期卒業生

関東地区代表幹事 西裏 正

第十一期卒業生同窓会は「三三会」として京都では二年毎に開催され、毎回一〇〇名を超す出席があります。又、生まれ育った京都を離れ関東に居を構える仲間で「関東地区三三会」を平成二年に発起して、原則として年一回の開催。約七十名の在席の内、毎回二十五〜三十名の出席があり盛会です。

幹事は各組の順番制にて会を企画し、これまでも伊豆や佐島マリーナへの一泊旅行、前回は東京湾クルーズと趣向を凝らし、同窓会のマンネリ化を防いでいます。

卒業して五十年以上古希という人生の節目も過ぎ、残された人生を有意義に楽しく美しく過ごすべく、各人が努力されており、同窓会の出逢いはお互いにその励みになっていることと思います。

第十二回「鴨沂三三会」のお知らせ  
日時 平成二十四年十月十六日(火)  
午前十二時〜  
場所 京都ロイヤルホテル&スパ

### 第十二期卒業生

二〇二二年度 代表幹事 川島 康之

昭和三十六年(一九六一年)三月に卒業の私たちの世代も、いよいよ来年『古希』を迎えることになりました。卒業時六〇名余りだった同窓生の約一割がすでに物故しています。が、所在のつかめない人達を除く約五〇〇名に案内状を出し、このところ毎回一七〇名〜一八〇名の参加を得て盛大に開催しています。

二〇一〇年六月十三日(日)午後開催の『卒業五十周年記念同窓会』では、元担任の山下俊正・深井隆三両先生をお招きし、一七七名が参加。初めての企画として『二年生・一年生当時のクラス別同窓会』も開催。

また、三人の場内カメラマンによる『スナップ写真集のDVD』を希望者全員に有料でお届けしました。また定番になった「同窓生の返信はがきによる近況報告」も、三〇〇名以上の分をプログラムに掲載しました。同窓会幹事は、十三クラスから各四名以上・総勢五十名を超える体制で実施していますが、今回は田和茂雄・千葉泰造・加藤ゆみ(長野文江)・吉阪(杉田)奉子の四人の方々に幹事会を代表してお世話いただきました。

二十一世紀に入ってから『還暦記念(二〇〇二年)』・『二〇〇五年』・『二〇〇八年』・『卒業五十周年記念(二〇一〇年)』とすでに四回開催しています。次回の平成二十四年(二〇一二年)六月二日(日)ウエスティンホテルで開催の『古希記念の十三期間窓会』については、今年の年賀状で全同窓生に予告したところです。

### 第十八期卒業生

小林 正雄

卒業二十五周年を期してスタートした学年同窓会、五年毎の開催で今年は五回目(卒業四十五年)をむかえます。

六月五日、京都会館会議場で十五名の参加を得て準備会がスタートしました。前回開催からのこの五年間の間に

年齢も六十歳を超えましたので卒業後の人生の中で多くの方が大きな節目をむかえられたことと思います。

同窓会も従前の形式を踏襲するのではなく、新しい試みを準備会で議論してまいりました。そして初めて昼間の開催(十三時から十六時)や、好きな飲み物が選べるドリンクコーナー(有料)の設置などを採用し十月二十三日(日)「からすま京都ホテル」で開催します。

また、五年毎の開催を次回は卒業四十八年、次回は卒業五十年に開催し、その後の開催については改めてその時に皆で相談しようというつもりになりました。

もう一つ大きな試みは、同窓生の



会報(有料)を発行しようと考えています。

全国いや世界も含めて活動を続けている卒業生八一三名の内、五年前で連絡がついたのは五〇〇人余り、何らかの意思表示をされる方は、その内三〇〇人余です。

この三〇〇人をターゲットに、近況報告、情報交換、話題提供等々、愉しく人生をすごせる情報誌にしたいと考えております。

この取り組みを成功させるため、みなさまの積極的な投稿と情報誌作りへの参画をよろしくおねがいいたします。

### 第十九期卒業生

#### 昨年の懇親会

川本 修平

年に一度の懇親会、昨年も例年通り開催されました。開催後出した十九期会報からの抜粋です。

\* \* \* \* \*

『二〇一〇年十一月六日(土)：六盛 錦秋に彩られた十一月、十九期会総会が左京区「六盛」で開催されました。

いつもの常連に加え、何十年ぶりかで出席された方や、今回はじめて参加された方など、多彩な顔ぶれの五十余名が旧交を暖めました。

総会のなかで、十九期会が何かとお世話になっている鈴木正穂さんか



ら、現在の鴨沂高校の状況が報告されました。クラス一丸となって取り組んだ懐かしい「仰げば尊し」や演劇コンクールなどは、今も健在のようですが、大学進学率などは以前よりも低下しているようです。

進学率だけで学校の値打ちが測れるとは思いませんが、そこには高校三原則を廃止して、意図的に学校間格差を作り出した府教委の方針があります。泉かよさんの近況報告にもあったように、このような母校の現

状を聞くにつけ残念な思いは否めません。

「自由」な校風の中で、さまざまなきことを学び、行動した青春の日々、鴨沂ですごした三年間はかけがえのない私たちの思い出です。それは、この十九期会が四半世紀を超えて続いていくところからもわかります。

総会は、会員の皆さんに交流の場を提供する機会として開催していますが、卒業して早や四十二年、老年の域に達した私たちが、元気をもらええる場となるように、これからも続けて生きたいと思っています。

会員の皆様、今後ともよろしくお願い致します。』

楽しいひと時を過ごし、次年の参加を約束しあい散会しました。

### 第二十期卒業生

応援に来て！

二十期事務局 山崎賢一・金子久美子

同窓会の皆様、お元気ですか？鴨沂高校の同窓会の理事長と事務局として三年間の運営に力をそそいで参りました。三月には、母校の卒業式で同窓会を代表して卒業生へ同窓会仲間になる旨の話をしました。もう六十三期生になるんですよ。

さて、十一月二十日の総会記念講演では、二十期の名物男「ミッキー」こと小川幹雄君(東京・新国立劇場)

が、日本舞台監督協会理事長として自分の成長と高校時代をからめて面白く話をしてくれると思います。今回は、応援に参加してもらえる様に、第一回(昭和六十一年・京都ホテル)以来続けている同窓会を、第九回目として呼びかけます。また、有志で集う「呑沂会」「チュリパ山の会」があり、四季折々に開催され、膝・腰に不安を抱きながらも頑張っています。

### 第二十一期卒業生

第二十一期同窓会に参加して

廣瀬ちづる

第二十一期同窓会は、昨年九月四日に全日空ホテルで開催されました。還暦を迎える年ということで初めて参加の方もあり、一〇〇人を超える皆さんが集い、あちらこちらで思い出話に花が咲いていました。

仕事や親の介護などで疲れも見える日常を忘れ、元気な昔にタイムスリップしたような心地よい高揚感に包まれたひとときでした。

隔年で開催されるこの学年の同窓会は昨年で十二回目。校区を離れている人も多く普段はほとんど交流のない参加者が、それぞれ楽しい時間を過ごせるよう工夫をこらされた会には、初回から毎回世話役を務めてくださる幹事の皆さんのたいへんなご尽力があって成り立っています。段取



りの整ったところに顔を出すだけの身、感謝以外の言葉は出てきません。事後には、会の様子を記録したDVD(写真)も送られてきて、あらためて幹事の方々に足を向けては眠れない気持ち強くしています。次回もみんな元気で再会できますように！

### 第二十二期卒業生

オリンピックに会いましょう！

杉足 泰彦

毎回、同期会を四年に一回開催しております。今回は二〇二二年で丁度還暦の年にも当たり、赤い衣装の仲間と埋め尽くされるのではないかと期待しております。

話題も子供から孫に移り、親の介護や自身の病気など暗い課題が多いですが、仲間との楽しい会話と昔からの素敵な笑顔に再会することで元気をもらえると嬉しいです。

この広い地球の京都で同じ時期に

生活をし、憧れと恋心と友情を抱き不思議な縁で結ばれた仲間と美味しい料理とお酒を飲みかわしストレスを解消しましょう。また年代の違う「同窓会」で各年代での思い出や徽章の成立ちや歴史など興味深いことを教えていただくのも嬉しいものです。還暦の素敵な思い出の一つとして再会を楽しみにしております。

### 第二十三期卒業生

第二十三期同窓会現況

前田 次世

二十三期は昭和四十三年入学四十六年卒業の四百余名です。この期は卒業直後に行われたクラス会以外ほとんど同窓会らしいものを開催していません。いま三十三歳を過ぎました。

三年前にスポーツレクリエーション大会滋賀大会で出会った三名が「みんなどうしているのかな?一度集まるといいね。あと三年で卒業四十周年に、五年後には還暦を迎えるのでぜひ学年同窓会が出来るといいな」との話になり、とりあえず身近な同窓生に声をかけて、当時京大近くにあった私の店を会場にして集まりました。その席上でもやりたいという意見が多く出され具体的に開催に向けて動き出しました。幹事団の尽力で一昨年、卒業三十八年目にして初めての学年同窓会が七十三名の参加

で開かれました。昨年も開催し八十名が出席しました。

今年はいよいよ卒業四十周年記念大会と銘打って八月十三日に、鴨沂と御所を挟む位置にある京都ガーデンパレスを会場に行いました。百名参加を目標に幹事会で準備をし、当日は百十三名の同窓生が参加、三名の先生にも出席いただき、楽しく盛会裏に終えました。

準備中、先生方にも出来る限り連絡を試みましたが、鬼籍に入られた先生の多さに四十年の時をしみじみ感じていきます。



### 第二十四期卒業生

卒業してからもうすぐ四十年 四六・三・五の会

藤井 義昭

昭和四十四年に各々大希を抱いて入学した。我々の学年は(四三〇名位)で(九クラス)で、いろいろな思い出をいっぱい胸に、四十七年三月に卒業しました。平成二十四年三月でもう四十年になります。

私の担任の先生は、毛利先生、室先生、石塚先生でしたが、平成二十一年に石塚先生が急逝され、もう三年になろうとしています。毛利先生(会報で知る)も他界されたそうです。自分の身近でも、残念ながら他界された同級生も五名程あります。

最初に記した、四六・三・五の会と言うのは、四十六年度に卒業した三年五組の略で、石塚信夫先生を中心によく開催している同窓会名で、先生が他界されてからは奥様に参加頂き、最初は同窓会ではなく、二十数名参加の偲ぶ会となり、早二日程の「フランク」となっております。

さて、全体の同窓会の事ですが、鈴木会長の他多くの役員の皆様方にはいつもご迷惑を掛け、本当に申し訳なく思っております。この同窓会の事も三年程前まで知りませんでした。今後は皆様方の足手まといとならないように思っておりますので、指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

### 第二十五期卒業生

誰か私の背中を押して……

南 寛

今から二年前、縁あって鴨沂高校同窓会の理事を引き受けることになりました。この話を聞きつけた何人かの人から、同窓会を開催せよとの圧力をいただきました。怠惰な性格ゆえ、多くの同期が肩書きから解放される「六十歳の節目の年に同窓会を開催するのがよい」と言い訳しながら名簿の整理を始めました。多くの皆様の協力を得て、調査開始から数ヶ月で同期四〇三名中二八三名の連絡先がわかりましたが、そこで作業が止まってしまいました。

その原因の一つは、煩わしい日常の雑事に加えて、懐かしい仲間とかつてのよさに素直にバカ騒ぎができるのかという不安にあります。多くの諸先輩が同窓会を楽しんでおられる様子をこの会報で読ませていただく、そんな不安は些細な杞憂に過ぎないことも頭では分かるのですが、もう一歩踏み出せずにおります。二十五期の皆さん、誰か私の背中を押してください。というよりプレ同窓会開催に向けて音頭とりをお願いいたします。年内に楽しいお酒が飲めることを期待しています。

まずは、Eメールで  
mirami3@mbbox.kyoto-inet.or.jp  
へ連絡ください。

### 第二十六期卒業生

天川 明久

東日本大震災で被災されました方に心からお見舞い申し上げます。

今回の震災では、私たち二十六期生にも、幸いにも津波を回避できた岩手県のメンバー、東京に勤務や出張していたことから帰宅困難者になったメンバー、一方、京都から福島第一原子力発電所へ緊急消防援助隊として赴いたメンバーなど、様々なことがありました。

今も余震の続く中、復興等に向けて、一番苦労した人が一番幸せにな



る、そんな世の中になるように、それそれぞれの立場で努力していきたいと思っています。

さて、私たち二十六期は、平成十年、卒業から二十五年を機に秋元享実行委員長を中心に同窓会を開催し、平成十五年に第二回を、十九年から二年に一回の開催として、還暦の二十七年を目指して行っています。当初は、十数名の幹事で運営を行って参りましたが、転勤、単身赴任や介護など、様々な事情から運営に携わっていたメンバーも少なくなりました。しかしながら、今回二人の新しい幹事を加え、第五回目の同窓会を本年十一月五日、グランドプリンスホテル京都で開催致します。また、東京、千葉など関東圏にも二十名以上のメンバーが居住しており、関東会(仮称)が結成されていることから、連携して充実を図っていく予定です。

### 第二十八期卒業生

長浜 千秋

私達第二十八期卒業生は、今年八月に同窓会を開催することになりました。卒業以来、範囲を広げて集まるのは、初めての試みです。

四月に、硬式テニス部の恒例の食事会の席で話が盛り上がり、バタバタと動き出しました。とりあえず、親しい友達から数珠繋ぎに連絡を取

る事にしました。

担任の先生方の連絡方法が分からないので、大江先生にご協力をお願いしました。

それから、鴨沂高校同窓会の事務局の金子さんを紹介して頂き、名簿を管理されているCDをお借りする事が出来ました。しかし、不明や修正されてない方が多いのに、驚きました。

どれだけの方々に連絡が取れ、集まるのかわかりませんが、これを機会に、データも承諾を得た範囲で、修正し、これから先末永く、同窓会が続けられる為の資料としたいと思っております。

出来るだけ多くの方が集まり、楽しく過ごせる事を願います。

### 第二十九期卒業生

鴨沂 魂

我妻 久子

高度成長にピリオドを打ったオイルショックの翌年の一九七四年、私は鴨沂高校に入学した。世間知らずで幼い私にとって、周りの同級生が大人っぽく目についた。とうとうか今思い返しても、鴨沂の同級生は大人っぽい人が多かった。

自由な校風の中、伸び伸びと演劇や「仰げば尊し」の行事に没頭した日々を思い出す。

青春真っ只中、恋にも躓き、数列、

三角関数にも躓いた。微分、積分になるとお手上げ状態になってしまっていた。でも、一所懸命生きた高校時代は、今でも私の核になっているような気がする。

四条河原町まで電車一本で行ける荒神口、晴れた日には、お弁当を広げた御所、古めかしくアカデミックな雰囲気さえした和と洋折衷の校舎、今は無き、木漏れ日のウィーンの森、「自由の園」のエネルギーが満ち満ちていた。当時、「三無主義」が若者の間に蔓延していたが、鴨沂には無縁だったように思う。

前の職場の同僚に「我妻さんて、形にとらわれないね。」と言われたことがある。自由さ、明るさ、前向きさは、鴨沂の三年間の空気だった。この鴨沂魂をずっと持ち続けたい。

### 山岳部OB会

三十一期 石井 崇夫

山岳部と言っても、殆どの方々はそのようなクラブがあったの？と首をかしげられることと思いますが、山岳部は知らなくても、地学担当で山岳部の名物顧問の故・酒井直治先生(通称・サカパン)は覚えておられることと思います。酒井先生が亡くなられた後、山岳部は廃部となり、その後もOBたちは、それぞれの年代ごとに細々と集まっていました。

特に団塊の世代よりも上の世代の



方々の活動はめざましく、かつては遠征登山、現在においても現役の頃と遜色のない活動をされているようです。一方、廃部となる少し前の世代である私達(二十期から三十三期までは、定期的に今出川通寺町西入の三十三期卒の佐々木氏の店である割烹「矢尾門」に集合し、近況を報告しあっていますが、子育てや仕事で忙しく遠征はおろか、近郊の山々にすら足を運べないという、ため息交じりの報告に始まり、その後は過去の栄光の山々の話に花を咲かせています。

中高年登山が大ブームとなっていますが、私達山岳部OBも安全で、楽しい登山を再び目指していきたいと思えます。

# スタインウェイ・ピアノ再生の事

二期生 仲谷 喬

鴨沂高校講堂の南出口の踊り場に古いグランドピアノが今も置かれています。このピアノは一九二七年製のハンブルグ・スタインウェイで昭和八年京都府立第一高等女学校を卒業の中野瑩子さん(音楽コンクール入賞者)と世界的オペラ歌手マリアトル女史との有料コンサートを開催(昭和十一年二月二十二日)するために、当時の鈴木校長が購入されたものです。その資金は当日の売り上げ金で賄われた。との記録が残っています。



この名器スタインウェイピアノの存在のために本校講堂で国内外の一流ピアニスト達の演奏会が開かれました。スタインウェイピアノは、世界中の有名コンサートホールには、例外無く設置されています。そして世界的ピアニストは好んでこのピアノで演奏しています。スタインウェイピアノに詳しい「礒田耕治」氏はその著書の中で「大修理によって復元する能力は国内外の楽器に共通しているが、唯一例外はスタインウェイなのだ。このピアノだけは時には十以上(元の能力)以上の能力を発揮することがあり、恐るべき復元能力のあるピアノである。」と語っています。製造年から推測してこのピアノも十分に再生出来ることが判りました。

今回、このピアノを再生しようという有志が集まり学校側と話し合いの結果、再生後は母校で使いたいという希望があり本来の目的にかなうのでこれに決定しました。なお再生



費用は約五百万円かかります(新品は千三百万円)。この後は募金活動を進める事になります。

## 『スタインウェイ再生の委員』

松村 直行 (3期)

大阪教育大学名誉教授(音楽家)

仲谷 喬 (3期)

鴨沂高校同窓会 理事

山崎 賢一 (20期)

鴨沂高校同窓会 理事長

金子久美子 (20期)

鴨沂高校同窓会 理事

連絡先(仲谷)

TEL・FAX 075-621-4780

✉ hz00216@agate.plala.or.jp

## 『鴨沂の歩み』合本の発行

鴨沂高校旧教職員の会は、多くの卒業生のみなさんのご協力を得て、『鴨沂の歩み』を一号から四号まで発行して参りました。

一号は主に、一九八五年～一九八五年の学園生活の特集とし、二号は、一期～五期の卒業生の思い出と、座談会「創生期の鴨沂を語る」を特集としました。三号は「高校三原則下の公立高校の実像」として、六期～十五期の卒業生の手記と座談会を特集しています。四号は、「高度経済成長期における自由と自治」を特集として、昭和三八年～四五年学園生活の思い出の手記をまとめています。

旧教職員の会も高齢化が進み、五号以下の編集が困難になってきましたので、戦後の高校教育の一面を示す教育史の資料として、一号～四号を合本にして公立図書館や各大学の図書館に寄贈致しましたが、残部がありますので、卒業生のみなさんの



中でお読みくださる方があればと思いい、紹介させていただきます。

### 『鴨沂の歩み』(合本)

一部 五千円、送料八〇〇円

計 五八〇〇円

ご希望の方は

〒六〇六-〇八〇六

京都市左京区下鴨蔭倉町六五-三

清水 弘 宛

現金書留でお申し込みください。

連絡先電話

〇七五-七二一-七三三八

# 関東鴨演会

一期生 木村 要



鴨沂高校の演劇部の同好会が東京に生まれ、「関東鴨演会」と名づけられたが、名称の様な堂々とした会ではない。たまたま京都の同窓会の理事会で、二十二期の理事から在学中に演劇部員であった高橋信也君と云う同期の卒業生が、東京の森美術館でゼネラル・マネージャーをしていらつしやると聞いて訪ねて行ってみた。館内に在任している演劇部のOBと逢

えたならば楽しいだろうなと思つて急遽、常田君や薄田君に連絡をして陽の目を見た会である。

私は十年ほど前から東京に狂言の稽古場を持っていて、毎月鶯鴨の界限で稽古をしていたので、設営さえしてくれたなら出席したいと頼んであったのが常田君と薄田君との世話で四月二十七日、新宿の「天狗」と云う居酒屋で実現した。薄田英彦・高野文雄・波多野博(京都)・木村正雄(京都)・柳 昭一・樋上(鈴木)三三子・常田弘之の各君で久々に旧交を温めたのだが、昨日も荒神橋の「芋末」で逢つていたかのような和やかな雰囲気の場合であった。残念ながら高橋君とは同席出来なかつたが、私は東京へは毎年四月二十九日の『昭和の日』に世田谷の代沢にある「北澤八幡神社」で顕彰記念狂言会を、十月の第一日曜日に練馬の井草八幡宮(この神社の宮司さんは鴨沂高校の同窓生)で大祭後宴狂言会を共に無料で開催しているので、又の機会を楽しみにして散会した。更に、今度は東京での鴨沂高校の同窓会にも出席してみたいと思つている。

(編集部注：木村要氏は大蔵流狂言師・木村正雄として活躍中)

# 府一卒の姉上を同窓会に迎えよう

八期生 猪熊 兼勝

鴨川岸の塾を意味する名称の鴨沂高校は府立第一高等女学校を前身とする伝統に輝く高校と誰しも自負してきた。府立第一高女は府一と省略している。校舎の北運動場に隣接して府一の同窓会館があり、誇りある卒業生のメモリアルホールとして活動してきた。その同窓会は「社団法人 京都鴨沂会」として各地に支部を擁し、目覚ましい活動をしてきた。会報の「鴨沂会誌」は、その輝かしき足跡を刻んでいる。従来から高校同窓会との合併話が出ていたが、この縁談はまとまらなかつた。だが京都鴨沂会員の高齢化は避けられず、次善の策として、高校卒業生も受け入れられることとなった。私も女学校の同窓会との違和感を持ちながら、継承会員との思いで入会した。

時あたかも小泉内閣の方針として、公益法人の見直しの事態となり、法人の性格が再確認された。その結果、驚くべき事実が明らかになった。「社団法人 京都鴨沂会」は設立以来「府一同窓会」でなかつたのである。京都鴨沂会の歴代関係者を始め、全ての会員が同窓会と確信していたと思う。霹靂の事

態となった。公益法人 京都鴨沂会は存続しても府一同窓会は精神的終焉を迎えるのである。私は悲しい。姉上たちは、そんなところではないだろう。けれども、京都鴨沂会は設立以来一世紀、同窓会の機能を果たしてきたのは事実である。実質的な京都鴨沂会を存続させる方法、つまり府一同窓会を継承する方法はないのだろうか。

かつて府一高女の歴史を語る時、明治五年の英語女学校から始めた。現在の鴨沂高校の正門を語る時、女紅場として引き継いだ九条家の門の移築から語らねばならない。とすれば、府一の卒業生もプレ・オーキの関係者として、鴨沂高校の大先輩として高校同窓会に迎えられないだろうか。規則や名簿など障害物があるかもしれない。そんなことは、皆の同意と工夫で解決できるだろう。府一に入学し、鴨沂高校を卒業された先輩の存在こそ両組織を繋ぐ糸である。数年前、京都鴨沂会に入会を認めてくれた先輩を、今度は歓迎したいと思つて。それが私たちの高校同窓会が、限りなく未来にまで存続する希望となる

# 京都鴨沂会は高校教育を支援しています

## 奨学金と高校教育振興助成金

## 社団法人 京都鴨沂会

京都鴨沂会から御挨拶申し上げます。

京都鴨沂会は京都府立第一高等女学校同窓会から、明治42年発展的に法人格を得て以来、103年間公益社団法人として永く教育振興への貢献を行って来ました。

この間、京都府立鴨沂高等学校同窓会とは歴史的な地縁を共有しながら、文部科学省所轄法人と法的には任意団体である同窓会との性格の異なった団体間の関係が続いたあと、京都府立鴨沂高等学校卒業生の内、京都鴨沂会の設立趣旨に同意するものを会員に迎える定款改正が行われ現在に至って居ります。現在では、公益社団法人京都鴨沂会の活動企画・活動実施にあたる理事・監事の全員が鴨沂高校で学んだものから成り立つに至って居ります。

若き日、我々の人格形成に、鴨沂高等学校での日々が大きく働いたことを忘れることは出来ません。教育機構としての鴨沂高校の存在に加えて、生徒と共に学ぶ実践者としての先生方との触れ合い、そして或いは生徒会に属し或いは同好の若者が集う活動、広い意味での仲間との練磨によって得たものを卒業後の活動に生かしている鴨沂高校卒業生の心意気の一例が京都鴨沂会にも見られるといっても過言ではありません。

私たち京都鴨沂会が広く市民の生涯学習の一つとして行っている「教養講座」は広く市民に開かれた活動でありま

す。最近の例では、京都の地震、英文学に見られるその時代の若者像、実演を伴った能・狂言の解説、京都の祭り、鴨川の鮎と生態史など一流の講師陣による講演を提供しています。皆様の御参加と御周知方を御願いできれば幸いです。

鴨沂会の教育振興支援の一つとして、府下の公立高校と大学との高大連携事業への援助があります。鴨沂高校と京都大学との連携特別授業のコーディネーターとしての活動がすでに三年目に入っています。京都大学の研究者を前にした生徒諸君の反応は素晴らしいものです。

京都府立鴨沂高等学校が最初の卒業生を世に送り出してから62年を数えます。

初期の卒業生で70歳から80歳台半ばの方々がお持ちでまだ第一線に並ぶ智慧を生かす場、団塊の世代と呼ばれる60歳代の現代の智慧に溢れるの方々、そして新しい文化・文明の創造者・担い手として活動しているハイティーンから五十代の生気溢れるの方々、併せて二万人を超える同窓の方々が、公人として活動される場を御提供できる京都鴨沂会を見直して頂きたく思っています。色々な企画のコーディネーターとして、また智慧袋としての働きなど、持てる力を試し・発揮する場を御提供出来ます。鴨沂高等学校同窓の皆様のお参加をお待ち致します。

## 京都鴨沂会館のご案内



京都鴨沂会館は皆様の憩いと交歓の場、そして教養の泉です。爽やかな人生を素敵に過ごすために是非ご利用下さい。

**会場・会議室** 平日 ◆ 10:00～21:00  
日祝日 ◆ 10:00～17:00

数名の小集会場から100名収容の大ホールまで。和室もございます。

同窓会、研修会、会議などの他、コーラス、管弦楽などの練習、バレエ、ダンスのレッスン場などにご利用下さい。ピアノやスライドの用意もございます。

## 文化教室

広く市民の皆様を対象に様々な講座を設けております。「書道」「女声コーラス 沙羅」「音楽教室」「俳画・幸翠会」「金剛流謡曲仕舞教室」「華道」などがございます。是非ご参加下さい。

\*お問い合わせ (社)京都鴨沂会 TEL 075-231-1001 FAX 075-241-2354  
E-mail: ohki-kai@wb3.so-net.ne.jp

URL: <http://www014.upp.s-net.ne.jp/ohki-kai> (鴨沂会館使用規定・使用料金表は左記へアクセスを)

## 第31回京都鴨沂会教養講座ご案内

「鴨川のアユは今後どうなるだろうかーアユが喜び 人が喜び『いのち』とは何かを考えるー」

日 時 平成23年12月3日(土) 午後1時30分から  
会 場 鴨沂会館・新館2階ホール  
講 師 川那部 浩哉 京都大学名誉教授(滋賀県立琵琶湖博物館 前館長)  
入場料無料 ※一般の方々のご来場を歓迎いたします。

# 事務局だより

## 1. 会員数

名簿搭載数 25,307名  
住所確認済 17,435名

## 2. 会員データの取扱いについて

### ①利用目的

会報の発行、総会の通知、同期会等各種同窓会活動のため

### ②登録データの範囲

氏名(旧姓)、〒番号、住所、電話番号、卒業期、卒業年度、卒業時クラス、同名簿番号、シリアル番号

### ③データの開示、訂正等

保有個人データについては、本人の求めに応じて開示、訂正、利用停止を行う。

### ④その他

総会、理事会、同期会、クラス会の開催のための幹事以外の第三者には、本人の同意を得ずにデータの提供を行わない。

## 3. 名簿管理用コンピュータ

設置場所 鴨沂会館1階・京都鴨沂会事務室内(プリンタ・留守電およびFAX用の電話機も設置)

## 4. 同窓会役員(平成20年度～平成22年度)

会長 鈴木 正穂(19期)  
副会長 藤野 英雄(4期) 猪熊 兼勝(8期)  
西尾 齊(10期)  
理事長 山崎 賢二(20期)  
会計 横井 猛彦(30期) 南 寛(25期)  
理事 木村 要(1期) 仲谷 喬(3期)  
田中 清子(5期) 今岡 公榮(7期)  
谷水三喜男(7期) 黒川 令三(8期)  
小西 逞夫(10期) ※安井 洸(13期)  
河合 勝彦(13期) 木村 正(14期)  
山本 早苗(14期) 谷口明日香(15期)  
佐川 公也(16期) ※太田 雅彦(18期)  
小林 正雄(18期) ※青木 栄子(19期)  
※金子久美子(20期) 杉足 泰彦(22期)  
安田 行秀(22期) 前田 次世(23期)  
藤井 義昭(24期) 天川 明久(26期)  
加藤 譲(28期) 奥田美智子(29期)  
石井 崇夫(31期) 福田 智子(34期)  
柿阪 宜孝(35期) 大石 昌彦(40期)  
鈴木 穂人(47期) 森木 吉人(48期)

[※は、事務局担当理事]

監事 戸川 隆博(11期) 廣瀬ちづる(21期)  
顧問 山岸 忠(校長)

## 京都府立鴨沂高校同窓会 会計報告

平成20年4月1日から平成23年3月31日

### 【収入の部】

(単位：円)

### 【支出の部】

(単位：円)

### 【次期繰越金明細】(単位：円)

科目	予算額	決算額
前期繰越金	14,915,824	14,915,824
年会費収入	3,600,000	4,464,200
寄付収入	20,000	120,000
總會収入	600,000	628,000
預貯金利息	16,000	16,644
名簿等収入	10,000	2,000
合計	19,161,824	20,146,668

科目	予算額	決算額
總會費	1,400,000	1,183,039
会報製作発送費	2,700,000	2,697,494
会議費	120,000	269,979
通信費	150,000	143,864
雑費	210,000	150,500
名簿DB維持費	90,000	5,800
施設使用料	360,000	360,000
活動事業費	1,560,000	796,725
支部活動助成金	150,000	150,000
実費弁償費	350,000	272,849
母校への寄付	1,000,000	1,000,000
小計	8,190,000	7,030,250
次期繰越金	10,971,824	13,116,418
合計	19,161,824	20,146,668

科目	金額
小口現金	23,192
通常貯金	519,136
定期定額貯金	11,926,850
振替口座	647,240
合計	13,116,418



# 京都府立鴨沂高等学校同窓会 会則

(名称)

第1条 本会は、京都府立鴨沂高等学校同窓会と称する。

(本部)

第2条 本会は、本部を京都市上京区荒神町の鴨沂会館内に置く。

(目的)

第3条 本会は、会員相互の親睦をはかり、母校の教育への後援を行い、もって公共の福祉に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 会員相互の親睦をはかること。
- (2) 母校の教育環境の充実に関すること。
- (3) 生徒の福祉と健康の増進に関すること。
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要なこと。

(会員)

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 母校卒業生、および母校に在籍したことがある者。
- (2) 特別会員 現、旧職員。

(総会)

第6条 本会は、3年ごとに会長の招集により定時総会を開くほか、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

2. 総会では、事業の経過および計画、会計収支決算および予算、会則の改廃ならびに役員人事の報告を行う。
3. 総会の議長は、会長または理事会が指名した理事がつとめる。
4. 総会において議決を行う場合は、出席者の過半数により決定する。

(年度)

第7条 本会の事業および会計年度は、4月1日から翌年の3月末日までとし、監事による会計監査を経て、総会において会計収支報告を行う。

(役員および会務)

第8条 本会は、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名 理事会の議決により正会員の中から選出する。  
会長は、会務を統括し、本会を代表する。
- (2) 副会長 若干名 理事の中から会長が委嘱する。  
副会長は会長を補佐し、会長に事故がある時は、これを代行する。
- (3) 理事長 1名 理事の互選により選出する。  
理事長は、会務の執行を推進する。
- (4) 会計 2名 理事の中から推薦により会長が委嘱する。  
会計は、本会の経理を担当する。
- (5) 理事 20名以上～40名以内 正会員の中から推薦により会長が委嘱する。  
理事は、理事会を構成し、事業の推進をはかり、目的の達成に協力する。
- (6) 監事 2名以上～3名以内 理事会の議決により正会員の中から選出し、会長が委嘱する。  
監事は、本会の会計を監査する。  
会計監査は、中間と期末に行う。
- (7) 顧問 1名 母校の現校長に委嘱する。

(任期)

第9条 役員の任期は3年とし、再選を妨げない。  
ただし、次の役員が選任されるまでは、その会務にあたる。

(理事会)

第10条 本会は、適時に理事会を開催し、次の事項を議決する。

- (1) 事業の経過および計画
- (2) 会計収支決算および予算

(3) 総会の開催

(4) 役員承認

(5) 会則の改廃

(6) その他、必要な事項

2. 理事会の議長は、理事長または理事会が指名した理事がつとめる。
3. 理事会の招集は、会日の2週間前までに、議事の主旨を示して、会長または理事長により行う。ただし、監事が必要と認めた時、または理事の二分の一以上の要求がある時は、その代表ができる。
4. 理事会の議決は、監事を除く議決権総数の過半数により決定する。
5. 理事会は、本会の活動情報を広報するとともに会員の意見集約につとめる。
6. 会長または理事長は、会務に関して専門的な問題を処理するために、若干名の理事による専門委員会を設置することができる。

(常任理事会)

第11条 理事長は、理事の中から若干名の「常任理事」を指名して常任理事会を招集し、会務に関しての協議および執行にあたらせることができる。

(会費等)

第12条 本会の運営に必要な費用は、会費、寄付金および雑収入をもってこれにあてる。

2. 会員は、年会費として、金2,000円を納入するものとする。

(経費)

第13条 本会の役員は、その業務執行につき必要な費用を、活動費として受け取ることができる。

(資金の管理と運用)

第14条 理事長は、本会の資金管理に関しては会員全員の共有資産であることに鑑み、その残高の確認には、特段の留意をしなければならない。

2. 理事長ならびに会計は、本会の資産運用に関しては元本が保証された安全かつ有利なものを選択するように留意しなければならない。

(議事録)

第15条 総会、理事会の議長は、議事の経過の要領と結果を記載した議事録を作成し、署名押印して理事全員に開示し、関係資料と共に本部に保管する。

(細則)

第16条 本会則の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

(支部)

第17条 本会は、理事会の承認により、支部を設置することができる。

2. 支部は、責任者を定めて、支部会員を掌握しなければならない。
3. 支部の維持や運営に対する助成は、理事会の承認を経て行うことができる。

(変更届)

第18条 会員は、住所や姓名などに異動があったときは、そのつど本会に報告するものとする。

(個人情報)

第19条 理事は、会員の情報を「個人情報の保護に関する法律」の規定に従い、慎重に取り扱わなければならない。

(会則外事項)

第20条 この会則に定めのない事項については、他の同窓会慣習や法令の定めるところによる。

付

1. 本会則は、昭和25年5月21日より施行する。
2. 昭和33年10月11日 一部改正
3. 平成8年11月18日 一部改正
4. 平成11年11月14日 一部改正
5. 平成20年10月8日 一部改正
6. 平成23年9月16日 一部改正

平成23年度

# 京都鴨沂高校同窓会総会のご案内



日時

平成**23**年**11**月**20**日(日)

15:30 ~ 受付開始



会場

ウェスティン都ホテル京都  
山城の間(東館2F)

京都市東山区三条けあげ ☎075-761-0252

16:00 ~ 第一部 総会議事

17:00 ~ 第二部 記念講演

17:45 ~ 第三部 マリオネット・ライブ

18:30 ~ 第四部 懇親会



会費

8,000円 ※当日お支払下さい

※準備の都合上、10月31日(月)までに同封のはがきで出欠の連絡をお願いします。

## 記念講演

テーマ 「鴨沂に生まれ、世界の劇場へ」

お かわ みき お  
講師 小川 幹雄氏 (20期生)

- ・日本舞台監督協会 理事長 ・新国立劇場国際連携協力室 室長
- ・ロンドン大学大学院修士課程修了 演劇学専攻MA

### プロフィール

第三錦林小学校、岡崎中学校、鴨沂高等学校、立命館大学を経て、劇団民藝演出部にて水品春樹、滝沢 修、宇野重吉、渡辺浩子に師事。文化庁芸術家在外研修派遣にて英国留学。早稲田大学講師、日本大学講師などを歴任。海外公演、全国公演を含め、演劇、ミュージカル、伝統芸能、コンサート等、幅広い分野において舞台監督を務める。1999年より新国立劇場所属。オペラ、バレエ、コンテンポラリーダンス、演劇、ミュージカル等、現代舞台芸術全般に携わる。

### ミッキーの人柄コメント

山崎理事長と中学1年の時、同じクラスで仲良しになり、今回の記念講演依頼となりました。鴨沂高校演劇コンクールでは、主演にて2年連続優勝を飾り、舞台芸術の世界に飛び込まれたようです。人とのコミュニケーションが上手く、当時から自由奔放でしたが、憎めないキャラでした。総会当日ライブのアコースティックユニット・マリオネットとは、ポルトガルで食事をした仲であるそうです。



## マリオネット・ライブ

日本におけるポルトガルギターのバイオニア・湯浅隆と、マンドリン奏者・吉田剛士によるアコースティックユニット。ポルトガルギターやマンドリウトなど演奏者の少ない楽器を取り上げ、ギターやマンドリンを組合わせて独特のオリジナル音楽の創作を中心に、ファドやポピュラー音楽まで幅広い音楽活動を行なっている。映画音楽(『パッチンして!おぼあちゃん』『エイジアン・ブルー〜浮島丸サコン』)、TVドラマ・ドキュメンタリー(『長崎ぶらぶら節』『皆なき者』他)、TV番組テーマ曲(『土曜元氣市』『2時ドッキリ』)、CM音楽(『沢の鶴』『日本経済新聞』他)、バレエ・演劇などの劇中音楽を数多く担当。

また、俳優・常田富士男、女優・日色ともゑを始め、パントマイム・清水きよし、歌手・りりィ、石川さゆり、渡辺真知子、グラシエラ・スサーナ、中国古箏・伍芳との共演など、様々な分野とジョイントして精力的に活躍。1995年のデビューCD『ぼるとがる幻想』は3万枚のセールスを突破し、イン

ストウルメンタルとしては異例のヒットを記録。以降、計13枚のアルバムを発表。また『徹子の部屋』『スタジオパークからこんにちは』を始め、多数のテレビ・ラジオに出演すると共に、BGMとしても数多く使われている。

1998年に開催されたリスボン国際博覧会 EXPO'98の日本館主催ジャパンデーのイベントに日本代表で出演。また、同博覧会の「Festival de Guitarra Portuguesa na Expo'98」に日本人では唯一招待されるなど、国際舞台も含めて益々の活躍が期待されている。

